

# 思想志、坦坦

コンピュータから日本語へ再構築する思想詩

場面。映像と音響あふれるとともに、あるいは情念と思索の荒地なのかもしれない今の大地。

世界人民さまが生活なされています。

わたくしは健康平和教育と保健させていただきます。

さまざまに政治権力をもつ方がたも、より健康な生活をすればよいのにとわたくしは想います。

というより、わたくしは、わたくしが健康平和生活と想える生活の模範をしないで実行し、日本民族と人間社会に対して示してまいります。

世界全人民は物理と生理の前に平等です。そして栄養と教養とおたがいの労働を分かちあいたいものです。

異性への恋愛と同性への友愛。自国通貨の獲得や他国通貨の獲得。キリストも親鸞も孔子も。食欲・性欲・貨幣欲・名誉欲を健康平和に調整する技能・技術・規律・制度がほしい。

わたくしは現実の世界全人民の個人個人を神とみなさせていただきます。神とは理想の生活者という目標です。現実に対する目標です。

陰は眉間がさえることです。陽は丹田に力がこもることです。体液と皮膚・筋肉の流転において、臓腑の機能と手足の屈伸において、陰陽を調和させた

いものです。そのための自覚外認識があります。そのための無自覚認識もあり、さらに自覚認識を育てたいものです。

わたくしは現実の自分の体内を無とします。無とは不快が無いという目標です。現実に対する目標です。

世の中を救う主。よすくいぬし。もちろん、それはわたくしではありません。この文章を読むあなたたちおひとりおひとりです。ご自分を救う者はご自分です。これが人権思想ではないでしょうか。

主役は一般人です。そこへ情念先導の上達者が協力します。そこへ学問・生産・道徳・政治解消について思索先導の上達者が協力します。そこへ各地域の休養交流や労働交流の体験者が協力します。これが世界健康平和運動でありましょう。健康平和会議の体験紹介と情念と思索。

世界公会準備会。

目的。現実論としておたがいの健康平和生活を追求しあう意思へ人間社会の意思を統一していく。

活動。この目的を提案し、それに対する質問・意見に学び、目的を実現する方法を開拓していく。

規律。自由と平等と健康平和の人間関係および金銭関係を構築する。生体協力と情感安定と情念融和と思考統合の技能と技術と規律を安価に販売する生活提案産業はこれから成長するのではないのでしょうか。

「もしもピアノが弾けたなら」という歌のタイトルではありませんが、もしも現実論としての希望を安価に販売していける事業があったなら、日本経済も世界経済も再起していくのではないのでしょうか。

コンピュータのデータベースが日本の家庭と職場を個人に解体しました。それはそれとして世界潮流です。解体された諸個人があらためて家庭という協会を創り職場という協会を創ればよろしい。それしかないであろう。

現代人は気がついていません。

姿勢動作の認識。呼吸の認識。食事と排泄の認識。人間関係の認識。精神の反省。生活環境の認識。

これらを修正していくことが必要であるということ。

これらを修正していくことが健康生活への道であるということ。

昔々。弥生農業と卑弥呼の共立。

これから。女性運動と農業運動はいかに？

病的戦争生活か、健康平和生活か、あれか、これか、ではありません。

病的戦争生活も、健康平和生活も、あれも、これも、あります。それが当面

の現実です。

どちらかと言えば、健康平和生活の方向を開拓したい。おたがいの健康平和生活のための諸生産を拡張したい。

無理もせず、無駄もせず、おたがいに死ぬまで続ける。

それが人間でありましょう。悪友も、善友も。

こういう地道さを当然としつつ、生産の理想はおたがいの健康平和生活の生産です。それは未知への挑戦です。次の社会へ低音の魅力と貴の品性を伝える商いを。

革命の熱情？

もう脱出したいのは、熱情の押し売りから…

『忠臣蔵』という日本民族の共同幻想。朝廷と幕府と藩があり、儀礼職と藩主がおり、殿中刃傷にて、藩主に切腹・お家断絶処分。お家の浪士が仇討ち、浪士に切腹処分。浪士のお家への忠義が人気を呼ぶ。ただし、仇討ちという殺人、自死を前提とした自集団への忠義。過去は過去。これからは殺や死を方法としない情念表出、自集団のみでなく人間社会全体の利益を想える精神

を開拓していききたいものです。

『水戸黄門』という日本民族の共同幻想。世直しは水戸の先の藩主であるご隠居がお忍びにて行う。この藩の水戸学は尊王論である。じいさまが実は名門のお上であつたことの証明シーン。「控え居ろう。この紋所が目に入らぬか。」の痛快が人気を呼ぶ。ただし、世直しもお上にも上にも上という民衆の依頼心。過去は過去。これからは人民おひとりおひとりさまがしだいに健康平和への改善・改革を工夫していく時代にしたいものです。それだけでなく民主制の時代のはじまりと言えましょう。

ああ日本民族。もつとも欧米化した東アジアの一民族。

ベートーヴェンの合唱の声を想い出しました。

「フロイデ シエーネル ゲッテルフンケン」

美空ひばりさんの声を想い出しました。

「好きで添えない 人の世を」

沢田研二さんの声を想い出しました。

「せめて少しはカッコつけさせてくれ」

理想もあります。さだめもあります。ちぐはぐもあります。

もう次の社会のための仕事と教育と芸術の発見が必要なのに発見しきれていないというもどかしさがあります。現体制を批判する反体制の正義の安易さ、それがもう障害となつているのだ。もう必要なのは新体制をゼロから構築していく勇氣なのだ。欧米の指導性がもうくずれはじめているではないか。これらの、もう、が今なのです。

「控え居ろう。朝日新聞という社名が目に入らぬか。」過去は過去。涙ほろり。

わたくしの立場は現実論と非暴力と諸民族調和です。あのヒットラーの志向は結局、架空論と軍事国家と民族差別でした。すなわち、わたくしとあのヒットラーは正反対なのでございます。

非暴力とは、自分のみは武力に触れませんという良い子の安易ではありませぬ。USAをはじめとして世界中において軍縮を先導できる思索と情念です。日本国の自衛隊を軍国準備から世界軍縮手段へ転換する知恵です。世界健康平和の防人といったところか。

敗戦は数十年前の話ではありません。

今まさに敗戦しつつあります。日本語が英語や数学に敗戦しつつあります。

日本語が勝てばよい、というのではない。日本語の長所短所を厳しく問うとともに、英語や数学の長所短所も厳しく問え。

たとえば実体を表す日本語をこのように変化させてみたい。

おれを生きさせろ。  
われを生きさせろ。  
これを生きさせろ。  
それを生きさせろ。  
あれを生きさせろ。  
どれも生きさせろ。  
立身出世はある意味自己中心。

おもしろうてやがてむなしき資本主義。

労働力から剰余労働量を搾取する競争をしていた資本制社会。とくに貧困階級への健康平和教育と保健の費用を富裕階級から寄付し、搾取に寄付を調和させていく。そうしておたがいの健康平和生活を生産する相互生産制社会へ。

日本民族は世界の階級循環と諸民族調和のお世話役がふさわしいと想います。

以上。  
世界健康平和運動の民衆路線。生活提案できる商業経営。保健という労働。健康平和方向の芸術とくに日本語の芸術。これらを統一していく思想の志であります。思想志であります。ひとすじの希望へ。坦々と。世界健康生活協同組合へ。

そして人間社会はまだ生理と物理の謎を解いていません。この謎を解いていく際、宮沢賢治の夢想がひとつの参考となるでしょう。

天皇家の精神伝統は貴重です。ただし、縄文時代からの日本民族の伝統と、これからの日本国の外交は、いちおう、区別されます。民族と国家の区別と連関について、思索と情念を深めていくべき時期に入っているのではないでしょう。

未解決の現状を反映したこの散文詩は、吉本隆明・齋藤守弘・寺沢薫・井沢元彦・庄司和晃・滝村隆一・重村智計・三浦つとむ・渥美俊一・沖正弘・川喜田二郎・雨宮処凛・阿久悠の諸氏の著に学びて書きました。ありがとうございました。とくに阿久悠『清らかな厭世言葉を失くした日本人への警句』。

祈りのファンファーレ。たとえば『蟹工船』の恨み節を超える明るさへ敢えて。

明るくなるよね 明るくなるさ  
仲良くなるよね 仲良くなるさ

賢くなるよね 賢くなるさ

エレガントに やさしく  
エレガントに やさしく  
エレガントに やさしく

次の社会を

2009年4月吉日  
JOMONあかのみい  
山田学 ©

追伸。富士山のように健康平和へ思索と情念の高みをめざしたいものです。そこに男性の老人の道もあるか。後姿を創りたい。

